

目標①-1 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知ることができる。

次のA・Bの文章中の傍線部①～⑤の語句の読み方を、あとに示す「例」のように現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

A

ある日きつねぶだうはたけに入り、赤く熟せしぶだうの高き棚よりすゞなりにさがりたるを見て、
多く群がって

これはうまさうじやと、したうちをしてほめたて、幾度となく躍上り踊上りたれどもどくかず。そ

おいしそう

舌なめずり

こできつねがはらをたつて、「ヨシ。なんだこんなものを。ぶだうはすッぱいぞ」
腹を立てて

なんでも手前勝手のものじや。自分の思ふ様になればほめる。ならねばそしる。こゝが情の私

自分勝手

非難する

自分の利益だ

②

とするところじやゆゑ常に戒めねばならぬぞ。
自分を言い聞かせなければならぬ。

けを追求する

『通俗伊蘇普物語』による

B

王戎、七歳のとき、かつて諸小児と遊び、道辺の李樹、子多くして枝を折れるをみる。諸児
人名 以前に 子どもたち 道端のスモモの木 実 枝が折れ曲がっている 子ども達

競ひ走りてこれを取るも、ただ戎のみ動かず。人これを問へば、答へていはく、「樹、道辺に在りて

王戎

子多し、これ必ず苦李ならん」と。これを取ればまことにしかり。

苦いスモモだろう

本常に

そのとおりであった

『世説新語』による

「例」かをり↓(かおり)

- ① 思ふ↓ ()
- ② ゆゑ↓ ()
- ③ 競ひ↓ ()
- ④ 問へば↓ ()
- ⑤ 答へて↓ ()

《解答》

⑤	④	③	②	①
答	問	競	ゆ	思
へ	へ	ひ	ゑ	ふ
て	ば	ひ	ゑ	ふ
↓	↓	↓	↓	↓
(((((
こ	と	き	ゆ	おも
た	え	そ	え	う
え	ば	い	え	う
て				
)))))